

令和6年2月版

活用後編

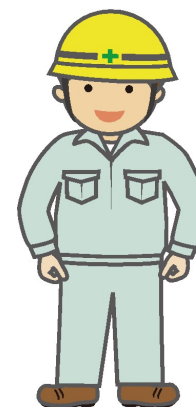
発注者・
施工者共通

活用効果調査表 作成マニュアル

～技術活用提案日にA, VR技術対象～

（技術活用提案日にVEの技術は作成不要です）

※このマニュアルは、新技術の活用後に
活用効果調査表を入力する際の
留意事項を示したものです。



国土交通省 中国地方整備局
中国技術事務所

活用効果調査表 作成マニュアル 目 次

「活用効果調査表」の役割		20 ページ
活用効果調査表 作成画面へのログイン方法		21-22 ページ
新技術活用計画書 工事期間の修正		23 ページ
実施報告書 記載方法		24-25 ページ
活用効果調査表	活用効果調査 評価点1～5点の目安	26 ページ
	活用効果調査 作成の視点(重要)	27 ページ
	評価項目のチェックと評点について	28-29ページ
	評価項目の入力について/コメントの記載内容	30 ページ
	同等 と評価する場合の評価事例	31-32 ページ
	「当該技術に関連しない項目」の取り扱い(原則選択しない)	33 ページ
	品質・出来形の評価 工事出来形に直接影響しない技術の場合	34 ページ
	「第三者に対する安全性」の評価	35 ページ
	「その他」の項目を追加して評価する場合	36 ページ
	総合的所見 施工状況の写真	37 ページ
当該技術ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか		38 ページ
活用効果調査表の提出		39 ページ
提出後に中国技術事務所から修正依頼があった場合		40 ページ
施工者への修正依頼		41ページ
活用効果調査表 よくある不備/ 留意点		42-43 ページ

活用効果調査表は、直轄事業で活用された新技術の有用性を検証し、評価することを目的とした事後評価(評価会議)に欠かせない大変重要な基礎資料です。

不備が無いよう作成し、工事期間終了前であっても新技術活用が終わりましたら、速やかに提出(登録)をお願いします。

なお、活用効果調査表の内容(コメント等)は、事務局で加工できませんので、評価会議において、委員に対してそのまま公開されます。その事を念頭において、作成をお願いします。

■ 活用効果調査表の提出時期について

活用効果調査表は、評価会議にはかるため、速やかにNETISへ登録し、内部公開(イントラネットへの公開)する必要がありますが、内部公開する前にチェックを行い、記載内容に不備があれば、修正依頼を行っています。

年度が変わって異動となった場合でも、当時の担当監督員へ修正が依頼され、施工者との調整が必要となります。異動後の修正作業は、施工者・監督員に大きな手間が生じますので、早めにチェックを済ませ、年度内に公開ができるよう、新技術の活用が済んだ時点で、早めの提出(登録)をお願いします。

新技術活用システム

活用効果調査表

5件以上集まった!

5件以上の活用効果調査表が集まりましたら事後評価を行い、有用な技術の選定を行い、有用な技術の普及をはかります。

【 事後評価 】

優位性

特有性

現場適用性

有用な技術の選定・普及

推奨技術

準推奨技術

活用促進技術

技術のスパイラルアップ

開発・改良
【開発者】

登録

評価の公表

客観的評価
【評価会議】

情報提供

試行・活用
【発注者】
【受注者】

活用効果調査表 作成画面へのログイン方法

21

工事毎に発行されたIDパスワードを使ってログインし活用効果調査表を作成します。

* ID/PWが不明の場合の対応

施工者のみ不明の場合は、まずは監督員へご確認ください。発注者（監督員）へは、施工者のID/PWも送られています。
発注者（監督員）または双方が不明の場合は、中国技術事務所へ連絡下さい。IDを再発行致します。

パスワード通知メールに記載のリンクからログインする場合

【NETIS】オンライン活用効果調査表入力用ID/PWのお知らせ：●●●●●●●●●●工事

NETIS システム <admin@netis-online.jp>
宛先 ●●●●

新技術活用工事
ご担当者様

NETIS オンライン活用効果調査表入力用 ID/PW 発行申請が承認されましたので、ID/PWを以下の ID/PW で、活用効果調査表入力用 Web サイトへログインの上、活用効果調査表の入力を行います。
※ID/PWはログインに必要となりますので、紛失しないよう保管をお願いします。

【ID/PW】

施工者用 ID	ABCDE	PW	12345
発注者用 ID	LMNOP	PW	98765

【新技術活用工事情報】

調査票を作成する新技術の NETIS 番号 **-*-*-*
受注者名
組織機関名
部署・事務所名
工事名
工事のコンパニ番号
監督職員氏名
監督職員メールアドレス
調査者氏名
調査者メールアドレス

【活用効果調査表入力用 Web サイト（施工者用）】

活用効果調査表入力用 Web サイトへ

【活用効果調査表入力用 Web サイト（発注者用）】

活用効果調査表入力用 Web サイトへ

施工者

発注者

施工者へは、（施工者用）のID:PW及びリンク先のみ通知されます。

「活用効果調査表入力用 Web サイトへ」の文字をクリック

発注者

活用効果調査表の作成・登録

受領したメールに記載のログインIDとパスワードを入力後、ログインボタンをクリック

ログインID LMNOP
パスワード 98765

ログイン

次ページへ

NETISホームページよりログインする場合

施工者

※NETISへアクセス (<https://www.netis.milt.go.jp/netis/>)

- 1)活用効果調査表／活用計画書 タブを選択
- 2)WEB活用効果調査表の「作成」をクリック

NETIS 新技術情報提供システム
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

新技術の検索 登録申請/変更・更新/事前相談 活用効果調査表/活用計画書 震災復旧・復興支援技術ページ NETIS活用状況データベース マニュアル/FAQ

事後評価に必要な申請書等です。「公共工事における新技術活用システム」運用マニュアル等を確認して下さい。

WEB活用効果調査表

活用効果調査表の作成にあたっては、「NETIS機能操作マニュアル（オンライン活用効果調査表作成）」を確認してから行ってください。
※マニュアルは随時更新されますのでご注意ください。

旧システムで作成した活用効果調査表の内容を修正する場合は、こちら

このタブを選択

クリックする

- ・新技術活用計画書・実施報告書
- ・活用効果調査表（発注者用）
- ・活用効果調査表（施工者用）

施工者

ID申請により受領したメールに記載のログインIDとパスワードを入力後、ログインボタンをクリック

施工者も、発注者同様にID:パスワード通知に記載のリンクからログイン可能です。

ログインID ABCDE
パスワード 12345

ログイン キャンセル

ログインID/パスワードをお持ちでない方はこちらから新規登録をお願いします。

ログインID/パスワードを新規登録

次ページへ

活用効果調査表 作成画面

22

ログイン後の 活用技術の管理画面例

施工者

発注者

活用技術の「活用効果調査表へ」のボタンをクリックし、活用効果調査表の作成画面へ入ります。

クリック

調査表作成状況

活用効果調査表へ	NETIS番号	技術名	調査表作成状況
活用効果調査表へ	KT-180089	樹脂製ネットによるイタドリ等の生育抑制手法	施工者作成中
活用効果調査表へ			監督者へ削除承認依頼中
活用効果調査表へ			施工者作成中
活用効果調査表へ			監督者確認中
活用効果調査表へ			中間確認者確認中
活用効果調査表へ			最終確認者確認中
活用効果調査表へ			公開済

調査表作成状況が、「中間確認者確認中」及び「最終確認者確認中」になっている場合は、修正ができません。

修正が必要な場合は、中国技術事務所へご連絡下さい。

活用効果調査表作成画面例

NETIS 新技術情報提供システム NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

活用効果調査表 / 活用計画書

技術活用提案日: 2023/09/26

登録番号(技術活用提案日時点): KT-180089

新技術名称: 樹脂製ネットによるイタドリ等の生育抑制手法

比較する従来技術: 除草、法面整形工、拔根、植生の併用

組織機関名: 中国地方整備局

部署・事務所名: 中国技術事務所

工事名: 〇〇〇〇〇〇工事

活用等の型: 施工者選定型(契約後提案)

登録番号(最新): KT-180089

新技術活用システム実施要領

活用効果調査表(施工者用)

A技術・VR技術では
・新技術活用計画書
・実施報告書
・活用効果調査表
の3つの様式の
作成・提出が必要です。

VE技術のタブ

技術活用提案日時点でA、VR技術で活用効果表作成時にVEやVGになっている技術について、実施報告書と活用計画書タブが消えて、VE技術と同じ表示になっており活用効果調査表が入力出来ない事が発生しています。

工事成績評価のため、技術活用提案時A、VR技術については、活用効果調査表の提出が必要となります。

このような場合は、中国技術事務所へご連絡下さい。

新技術活用計画書 工事期間の修正(施工者において修正)

23

工事期間、新技術施工期間が、計画時より変更されていまして修正をお願いします。

提出時には、必ず「記入完了」にチェックを入れてください。

新技術活用計画書 入力画面 活用効果調査表 (施工者用)

☒ 記入完了 ※下記項目の記入が完了したら、チェックを入れて下さい。

作成日 2022/04/25

受注者名 ●●●●●●株式会社

契約額(円) ●●●●●●円

工事期間 2022/04/09 ~ 2023/03/31

新技術施工期間 2022/04/25 ~ 2023/03/27

施工場所 広島県広島市安芸区船越南2-8-1

活用効果調査表作成時点で、工事期間や新技術施工期間の変更がありましたら、**情報を更新**してください。

記入完了のチェックについて

記入完了チェックボックスは、**各タブ毎**にありますので、活用効果調査表提出時には3つのタブ全てにチェックが必要です。



画面を閉じる



一時保存



印刷・プレビュー



登録

記入完了のチェックボックスへ☒の上、登録ボタンを押す事で記入漏れ等のチェックをシステムで行い、エラーがなければ中技へ自動的に提出(登録)されます。

なお、活用効果調査表入力時点では、実施報告書及び活用効果調査表のチェックボックスに☒は入っていないので、必ず、手動で☒を入れる必要があります。

注意)記入完了のチェックが入っていない状態で登録ボタンを押しても、中国技術事務所に提出されません。そのため、提出したつもりが未提出状態になっているという案件が多発していますので、全ての記入が終わった時点で必ず記入完了のチェックを確認してから登録ボタンを押して下さい。



実施報告書 記載方法-1 (施工者において入力)

24

実施報告書 施工概要では、具体的な数量や工種を記載します。

新技術活用計画書 実施報告書 活用効果調査表(施工者用)

☒ 記入完了 ※記入済

提出前には、必ず「記入完了」をチェックします

施工概要 内容 全角1000文字以内。

例) ○○整備事業における●●工事である。
道路改良 L=○m、橋梁下部工○式、橋脚○基
【工事全体の主要工種の数量を記入】

工事全体の数量

Point

新技術の活用数量

対象数量 全角127文字以内。 ※新技術を活用する数量を記入して下さい。

例) 橋梁の切削箇所 ○m² 【新技術の使用数量】

新技術使用箇所 全角127文字以内。

例) 路面切削土工部 ○m² 【新技術の適用箇所や工種】

施工概要 「内容」欄は、どのような工事(業務)で、どのように活用されたのか知るための欄ですので、工事全体の施工(業務)内容がわかる工種と数量を記載してください。

※主な工種の数量を具体的に記載してください。

工種・数量はコリンズ登録の工事概要を流用頂ければ手間は少し省けると思います。

仮設工や維持工事等では、「一式」の記載を認めますが、基本的に「一式」の記載は不可です。

【不適切な例】 × 道路土工 一式 【適切な例】 ○盛土工 1500m³

施工概要 「対象数量」欄は、新技術の使用量や対象工種の数量を記載します。NETISに掲載されている「基準とする数量」の単位を使用し、使用した数量や期間を具体的に記載してください。【重要】

※必要に応じて情報を補ってください。【重要】

例) 舗装補修技術であれば 舗装面積○m²だけではなく、舗装厚○cm システムや機械であれば 使用期間に加え、使用した台数 機器買い取りの場合○台、リース品の場合○台・日など

【不適切な例】 × ●●工 一式

【適切な例】 ○ 50基、10カ月(数量と期間)

修正の多い内容

○施工概要に工種・数量が入っていない。

「○○整備事業における●●工事である。」と工事概要のみ記載されている。

○対象数量に、工事全体の数量が入っている。

「道路改良 L=○m、橋梁下部工○式、橋脚○基」と工事全体の数量が入っている。

新技術使用箇所は、この工事(業務)での使用箇所を具体的に記載してください。

対象数量の単位は、「基準とする数量」とそろえてください。

NETISホームページ 「従来技術との比較」タブをクリック

項目	活用効果	従来技術との比較
経済性	向上 (41.2%)	従来技術と比べて日当たり作業量が増加で、短縮となる
工期	短縮 (55%)	従来技術と比較して日当たり作業量が減少し、短縮となる
品質	向上	従来技術と比較して日当たり作業量が減少し、短縮となる
安全性	向上	従来技術と比較して日当たり作業量が減少し、短縮となる
施工性	向上	従来技術と比較して日当たり作業量が減少し、短縮となる
周辺環境への影響	向上	従来技術と比較して日当たり作業量が減少し、短縮となる
その他、技術のアピールポイント等	舗装板剥ぎ取りにおいて、従来工法と比較して剥ぎ残しが少なく、特殊な形状にしたことで剥ぎ取り作業の効率が改善され工種の短縮が可能となった。	
コストタイプ	両数値型: C(+)-型	

活用効果の概要	基準とする数量	1000.00	単位	m
新技術				
従来技術				
向上の程度				

施工（活用）概要資料 ※新技術の活用内容が把握できる図面や写真等を添付。（活用後の情報で構いません。）

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または

ファイルを選択 選択されていません

例えば、夜間用の反射材など、施工中の写真では技術の評価の判断できないものは、効果の分かる夜間の写真等を必ず添付して下さい。

施工（活用）概要資料は、必須項目ではありませんが、事後評価段階で活用状況が把握できる資料をできるだけ添付してください。

* 概要資料とは新技術の活用内容が把握出来る図面や数量表、実績表、写真などです。NETIS情報のPDFやパンフレット、活用効果調査表と同じ写真を添付する必要はありません。

現場施工条件 各全角1000文字以内。

●現場条件

例) 回収部分のN値は、2～13程度。川裏側に一部碎石があり、先行除去作業が必要であった。

●周辺状況（病院、学校、鉄塔の有無等）

例) 改良部より川裏側（L=6.0m付近）に電力会社の鉄塔あり

●自然環境（騒音、振動、水質等）

例) 今回施工した改良部では、地下水、湧水への影響はない。

「現場施工条件」は、活用効果調査表がどのような条件で作成されているのか判断する重要な欄です。

地質や天候などの自然条件や夜間施工であるか、工事へ影響する施設の有無など、具体的な記載をお願いします。

特筆することがない場合、「特になし」と記載してください。

障害 施工上で重大な障害や問題が生じましたか。

●無 ○有 チェックを外す

障害の内容 全角127文字以内。

障害の有無について、該当項目の○をクリックして選択します。

※GNSSの受信状況など

作業環境 ○陸上作業 ○水上作業 ○地下作業 ○水中作業 ●高所作業

チェックを外す

作業環境について、該当項目の○をクリックして選択します。

活用効果調査表 の作成の視点【重要】26

活用効果調査表は、『比較する従来技術』と比較し、**原則6項目は全て評価**を行ってください。
『比較する従来技術』は、新技術名称の下欄に自動で表示されています。



NETIS 新技術情報提供システム
NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM

新技術の検索 登録申請/変更・更新/事前相談 活用効果調査表/活用計画書 テーマ設定型の比較表

画面を閉じる 一時保存 印刷・プレビュー 登録

※120分間でタイムアウトします。作成の都度、一時保存を行ってください。一時保存は画面上部メニュー「一時保存」から登録内容に関するお問い合わせはこちら
システム操作方法に関するお問い合わせはこちら

技術活用提案日 2023/09/26

登録番号(技術活用提案日時点) QS-170005 - A

新技術名称 クマンツメ

比較する従来技術 平爪を装着したバックホウ+人力剥離作業

組織機関名 中国地方整備局



NETIS掲載情報

概要 従来技術との比較 特許・審査証明 単価・施工方法 問合せ先・その他 詳細説明資料

活用の効果

比較する従来技術 平爪を装着したバックホウ+人力剥離作業

項目	活用効果
経済性	向上 (41.3%) 同程度
6項目 工程	短縮 (50%) 同程度
品質	向上 同程度 低下
安全性	向上 同程度 低下
施工性	向上 同程度 低下
周辺環境への影響	向上 同程度 低下
その他項目追加欄	向上 同程度 低下

「従来技術との比較」タブをクリック

比較する従来技術

「同程度」の場合、具体的な効果が記載されていませんが、「当該技術に関連しない項目」ではありません。原則、6項目について評価を行います。

従来技術と比較して剥ぎ取り効率が向上し施工効率が向上する

その他、技術のアピールポイント等 舗装版剥ぎ取りにおいて、従来工法と比較して剥ぎ残しが少なく、特殊な形状にしたことで剥ぎ取り作業の改善され工程の短縮が可能となった。

比較する従来技術が適切でない場合

「比較する従来技術」との比較が不適切と考えられる場合も、NETISホームページに記載の技術と比較してください。
その上で「当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか」欄で**適切でなかった**を選択し、**不適切と思う理由と適切と思われる従来技術名**を記入してください。(35ページを参照下さい。)

注意)上記赤囲い内の「その他、技術のアピールポイント等」は、評価項目の「その他」ではありません。
申請時に6項目以外の比較が追加されている場合は、6項目の下に、下記のように具体的な項目として追加されています。

情報化 向上 同程度 低下

当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか

☐ 適切であった ☐ 適切でなかった

適切でなかった場合、どんな従来技術と比較したらよいか、従来技術名を記入して下さい 全角127文字以内。

活用効果調査表 評価点1～5点の目安

27

活用した新技術が、「比較する従来技術」に比べて「優れる」か、「同等」か、「劣る」か判断し、どの程度優れているか、どの程度劣っているか、なお、（1～5）判断の目安として、中技HPに掲載してあるコメント事例集のコメントに対する評点事例などを参考に判断して下さい。

大幅に劣る	劣る	同等	優れる	大幅に優れる
1	2	3	4	5

青囲いの6項目は、原則1～5点の評価が必要。
赤囲いの「その他」は原則評価しない。

経済性

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
○1 ○2 ○3		●4 ○5

評価点

優れていた点

- 機械経費・製品評価・補助材料費が減少したため
- 作業人員が減少したため
- 仮設費が減少したため
- 施工日数が短縮したため
- 施工量が想定数値より多かったため
- 維持管理費の減少が見込まれるため

劣っていた点

- 機械経費・製品評価・補助材料費が増加したため
- 作業人員が増加したため
- 仮設費が増加したため
- 施工日数が延長したため
- 施工量が想定数値より少なかったため
- 維持管理費の増加が見込まれるため

工程

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
○1 ○2 ○3		●4 ○5

評価点

優れていた点

- 施工日数が短縮したため
- 工程計画が組みやすかったため
- 予定工程どおりに進捗したため
- 施工性が向上したため
- 仮設が減少したため
- 維持管理にかかる日数の減少が見込まれるため

劣っていた点

- 施工日数が延長したため
- 工程計画が組みづらかったため
- 予定工程どおりに進捗しなかったため
- 施工性が劣るため
- 仮設が増加したため
- 維持管理にかかる日数の増加が見込まれるため

品質・出来形

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
○1 ○2 ○3		●4 ○5

評価点

優れていた点

- 品質が向上したため
- 出来形・精度が向上したため
- 耐久性が向上する構造になったため
- 品質・出来形の管理項目が減少したため
- 品質・出来形の管理頻度が減少したため

劣っていた点

- 品質が低下したため
- 出来形・精度が低下したため
- 耐久性が劣る構造になったため
- 品質・出来形の管理項目が増加したため
- 品質・出来形の管理頻度が増加したため

安全性

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
○1 ○2 ○3		●4 ●5

評価点

優れていた点

- 運搬・転送事故の危険性が減少したため
- 労働災害の危険性が減少したため
- 震害・落下物災害の危険性が減少したため
- 作業環境(騒音・騒音・振動等)が向上したため
- 危険物の取扱いが減少したため

劣っていた点

- 運搬・転送事故の危険性が増加したため
- 労働災害の危険性が増加したため
- 震害・落下物災害の危険性が増加したため
- 作業環境(騒音・騒音・振動等)が悪化したため
- 危険物の取扱いが増加したため

施工性

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
○1 ○2 ○3		●4 ●5

評価点

優れていた点

- 現場での施工が減少したため
- 仮設工が減少したため
- 作業員の作業が容易になったため
- 熟練者に依存した作業が減少したため
- 施工の機械化が向上したため
- 施工時の制約条件が減少したため

劣っていた点

- 現場での施工が増加したため
- 仮設工が増加したため
- 作業員の作業が困難になったため
- 熟練者に依存した作業が増加したため
- 施工の機械化が低下したため
- 施工時の制約条件が増加したため

環境

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
○1 ○2 ○3		●4 ●5

評価点

優れていた点

- 周辺環境への影響(大気・土壌・水質汚染)が減少したため
- 騒音・振動・粉塵等作業環境が改善したため
- 周辺の自然・生態環境・景観との調和が向上したため
- 産業廃棄物の発生量が減少したため(リサイクル率が向上したため)
- 省エネルギー・省資源が向上したため

劣っていた点

- 周辺環境への影響(大気・土壌・水質汚染)が悪化したため
- 騒音・振動・粉塵等作業環境が悪化したため
- 周辺の自然・生態環境・景観との調和が低下したため
- 産業廃棄物の発生量が増加したため(リサイクル率が低下したため)
- 省エネルギー・省資源が低下したため

上記項目の他に評価事項がある場合は本項目にて評価を行って下さい。優れていた点、劣っていた点はコメント欄へ具体的に記載して下さい。

その他

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
○1 ○2 ○3		●4 ○5

コメント 全角1000文字以内

その他の欄は、原則A技術では、評価に使用しません。(評価点も付けません)

※新技術評価会議において、追跡調査が必要と判断され、評価会議が決定した調査の目的に合致する調査内容、調査方法等により、調査を実施する場合の欄で、VR技術に使用する欄となっています。

※なお、発注者・施工者双方が、特筆すべき点があり6項目に該当しない点であるが評価のために必要と判断した場合や、申請情報に6項目以外の項目が追加されている場合(前ページ参照)に限って使用する事ができます。

6つの項目を①評価点数 ②調査の視点（優れていた点・劣っていた点） ③コメント の3項目により評価します。

重要：発注者（監督員）と施工者の評価項目は同一とし、一方だけが「当該技術に関連しない項目である」としないで下さい。
 なお、発注者と施工者の評価が全く異なる場合（どちらかが「優れる」でどちらかが「劣る」と評価）は、
 提出前に調整を行ってください。

安全性

効果調査

①評価点

従来技術より劣る

同等

従来技術より優れる

○ 1

○ 2

○ 3

○ 4

● 5

○ 当該技術に関連しない項目である

コメント

例）施工機械がバックホウタイプなので機動性があり、転倒のリスクも減少し、安全性が高い。

①評価点数を入力します。
○をクリックし選択します。

②調査の視点

②該当する項目の
☑をクリックし
チェックを入れます。

優れていた点

☑ 墜落・転落事故の危険性が減少したため

☐ 重機災害の危険性が減少したため

☑ 飛来・落下物災害の危険性が減少したため

☐ 作業環境(暗がり・騒音・狭所作業等)が向上したため

☐ 危険物の取扱が減少したため

劣っていた点

☐ 墜落・転落事故の危険性が増加したため

☐ 重機災害の危険性が増加したため

☐ 飛来・落下物災害の危険性が増加したため

☐ 作業環境(暗がり・騒音・狭所作業等)が悪化したため

☐ 危険物の取扱が増加したため

②「優れていた点・劣っていた点」の
チェック数に応じて、
①効果調査の点数
(1～5点)が、自
動的に決まるシス
テムではありません。
次ページ以降を
参照に評価点を手
動でチェックし入力
して下さい。

原則選択
しない

③コメント重視の評価となっております。
コメントを必ず記入してください。

各評価のチェックポイント

- ◆ ①効果調査（評価点数○点）
②優れていた点・劣っていた点
③コメント } の整合が取れているか？
- ◆ 計画書の「活用理由」
「総合的所見」 } と整合が取れているか？

☑ に該当する項目がないとき

該当する項目がない場合、近い内容をチェックし、コメントにおいて、優れている点や劣っている点を具体的に記載してください。また、「優れていた点・劣っていた点」に該当する項目がなかったことも記載をお願いします。
 ＊チェックがないと登録できないシステム仕様となっています。
 （システム改善要望中）

評価項目のチェックと評価点について-2

29

優れていた点・劣っていた点のチェック数で自動的に評価を決めるものではありません。

優れていた点が多く評価が「5」の例

経済性

効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
○ 1	○ 2	○ 3
○ 4	● 5	

○ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

例) 経済性は、ベースマシンがバックホウタイプで小型であることから、機械経費・人件費が安価となり、仮設足場材(敷鉄板)に要する費用が減少し、施工日数が短縮できたという理由で非常に優れている。

優れていた点

- ☒ 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため
- ☒ 作業人員が減少したため
- ☒ 仮設費が減少したため
- ☒ 施工日数が短縮したため

☐ 施工量が従来より多かったため

☐ 維持管理費の減少が見込まれるため

劣っていた点

☐ 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため

全般的に優れている点をコメント

☐ 維持管理費の増加が見込まれるため

優れていた点のチェックが4項目

優れていた点は1項目だが評価が「5」の例

工程

効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
○ 1	○ 2	○ 3
○ 4	● 5	

○ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

例) 工程は、地盤改良に要する日数を当初8日間予定していたが、4日間(1/2)となり、施工日数を短縮できたという理由で非常に優れていた。

優れていた点

- ☒ 施工日数が短縮したため

☐ 工程計画が組みやすかったため

☐ 予定工程どおりに進捗したため

☐ 施工性が向上したため

☐ 仮設が減少したため

☐ 維持管理にかかる日数の減少が見込まれるため

劣っていた点

☐ 施工日数が延長したため

☐ 工程計画が組みづらかったため

1項目がいかに優れていたかを具体的にコメント

優れていた点のチェックが1項目

評価点とコメント

優れていた点のチェックが1項目でも「従来技術より優れる(5点)」と評価するケースがあります。

チェック項目数だけの判断ではありません。コメントにおいて、特に優れていた点を具体的に記載して下さい。

評価点別のコメントの見本を中技HPに記載していますので、参考にして下さい。

コメントの記載内容

【必須項目】

- ◆ 効果調査でチェックした評価(1～5点)の理由
- ◆ 「優れていた点・劣っていた点」でチェックした項目の補足
- ◆ 「優れていた点・劣っていた点」の項目にはない、具体的な活用状況



現場の具体的な事例が
有用な資料となります。
可能な限り
定量的なコメントを
記載してください。

工程

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○ 1	○ 2	○ 3	● 4	○ 5

○ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

例) 機械設備の搬入・搬出にかかる仮設が大幅に省略できたため、当初、8日間予定していた搬入・搬出の日程が6日間(2日間の短縮)になり、従来技術より工程が短縮できた。

優れていた点

- ☒ 施工日数が短縮したため
 - ☐ 工程計画が組みやすかったため
 - ☐ 予定工程どおりに進捗したため
 - ☐ 施工性が向上したため
 - ☐ 仮設が減少したため
 - ☐ 維持管理にかかる日数の減少が見込まれるため

劣っていた点

- ☐ 施工日数が延長したため
- ☐ 工程計画が組みづらかったため
- ☐ 予定工程どおりに進捗しなかったため
- ☐ 施工性が劣るため
- ☐ 仮設が増加したため
- ☐ 維持管理にかかる日数の増加が見込まれるため

(参考) 定量的なコメント作成の際、参考にしてください

「従来技術との比較」タブをクリック

項目	従来技術	新技術	向上の程度
総工数	1000.00	692.000	41.95%
総費用	401,680円	292,000円	41.95%
工期	2日	4日	50%

活用効果の根拠

項目	仕様	数量	単位	単価	金額	総算
バックホウ運転	0.28m3	2	日	35,900円	71,800円	見送り
ポンプトラック運転						見送り
ランニング費(4名/日)						見送り
送作業者		4人		17,600円	70,400円	見送り

コメント記載のポイント

- ◆ 冒頭に「〇〇のため」と理由を入れると、わかりやすいコメントになります
- ◆ 「従来技術の●●と比較して〇〇であった」という視点で作成します

工程のポイント

工程と施工性は、密接な関係にあります。相互の整合性を確認します。

同等と評価する場合の評価事例-1

「同等」の評価事例① 優れていた点・劣っていた点に☑がつかない場合

施工性

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○1	○2	●3	○4	○5

○当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

例) 従来技術と比較して、構造が類似した落橋防止材であるため、現場での施工性は同程度であった。

コメントで、同等と判断した理由を明記してください。

優れていた点

- ☐ 現場での施工が減少したため
- ☐ 仮設工が減少したため
- ☐ 作業員の作業が容易になったため
- ☐ 熟練度に依存した作業が減少したため
- ☐ 施工の機械化が向上したため
- ☐ 施工時の制約条件が減少したため

劣っていた点

- ☐ 現場での施工が増加したため
- ☐ 仮設工が増加したため
- ☐ 作業員の手間が増えたため
- ☐ 熟練度に依存した作業が増加したため
- ☐ 施工の機械化が低下したため
- ☐ 施工時の制約条件が増加したため

「同等」と評価する場合は、「優れていた点・劣っていた点」のチェックが無くてもシステム登録は可能です。

「同等」の評価事例② 総合的に判断して同等とする場合

経済性

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○1	○2	●3	○4	○5

○当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

例) 新技術の製品単価は、従来技術よりも高額であったが、工程の短縮、作業人員の減少により、総合的には、従来と同等の経費での施工ができた。

具体的な事由を列挙し、同等と評価した理由を記載します。

優れていた点

- ☐ 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため
- ☒ 作業人員が減少したため
- ☐ 仮設費が減少したため
- ☒ 施工日数が短縮したため
- ☐ 施工量が想定数量より多かったため
- ☐ 維持管理費の減少が見込まれるため

劣っていた点

- ☒ 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため
- ☐ 作業人員が増加したため
- ☐ 仮設費が増加したため
- ☐ 施工日数が延長したため
- ☐ 施工量が想定数量より少なかったため
- ☐ 維持管理費の増加が見込まれるため

優れていた点があるが

劣っていた点もあり
トータルで判断。

「同等」の評価事例③ 優れていた点があるが同等(3点)と判断する場合

環境

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○1	○2	●3	○4	○5

○当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

例)周辺環境への騒音は低減したが、総合的に評価し同等であった。

コメントで、同等と判断した理由を明記してください。

優れていた点

☒ 周辺環境への影響(大気・土壌・水質汚染)が減少したため

☐ 騒音・振動・粉塵等作業環境が改善したため

☐ 周辺の自然・生態環境・景観との調和が向上したため

☐ 産業廃棄物の発生量が減少したため(リサイクル性が向上したため)

☐ 省エネルギー・省資源化が向上したため

劣っていた点

☐ 周辺環境への影響(大気・土壌・水質汚染)が悪化したため

☐ 騒音・振動・粉塵等作業環境が悪化したため

☐ 周辺の自然・生態環境・景観との調和が低下したため

☐ 産業廃棄物の発生量が増加したため(リサイクル性が低下したため)

☐ 省エネルギー・省資源が低下したため

優れていた点があり有用な技術だが「従来技術より優れる(4点)」では過大として「同等(3点)」と評価したケース

「同等」の評価事例④ 従来技術と変化がない場合

環境

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○1	○2	●3	○4	○5

○当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

例)周辺環境への影響について、従来技術と変化がないため同等とする。

×情報化技術のため、環境に影響しない

○明らかな影響の増減がないため同等とする。

優れていた点

☐ 周辺環境への影響(大気・土壌・水質汚染)が減少したため

☐ 騒音・振動・粉塵等作業環境が改善したため

☐ 周辺の自然・生態環境・景観との調和が向上したため

☐ 産業廃棄物の発生量が減少したため(リサイクル性が向上したため)

☐ 省エネルギー・省資源化が向上したため

劣っていた点

☐ 周辺環境への影響(大気・土壌・水質汚染)が悪化したため

☐ 騒音・振動・粉塵等作業環境が悪化したため

☐ 周辺の自然・生態環境・景観との調和が低下したため

☐ 産業廃棄物の発生量が増加したため(リサイクル性が低下したため)

☐ 省エネルギー・省資源が低下したため

「優れていた点」「劣っていた点」のいずれにも該当がないケース

- ・大気・土壌・水質汚染がない
- ・騒音・振動・粉塵の発生無し
- ・周辺の自然や景観に影響なし
- ・リサイクル性や産廃量に変化なし
- ・燃料の使用量、CO2発生量等に変化なし

「当該技術に関連しない項目」の取り扱い(原則選択しない) 33

- ◆原則、6項目については、当該技術に関連しない項目は選択しないで下さい。
～「経済性」「工程」「安全性」「施工性」「品質・出来形」「環境」～

従来技術と違いがない場合、または、優れる点や劣る点がない場合は「同等」となります。

品質・出来形

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○1	○2	○3	○4	○5

●当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

「当該技術に関連しない項目である」と判断した場合、その理由を必ず記載してください。

優れていた点

- ☐ 品質が向上したため
- ☐ 出来形・精度が向上したため
- ☐ 耐久性が向上する構造になったため
- ☐ 品質・出来形の管理項目が減少したため
- ☐ 品質・出来形の管理頻度が減少したため

「当該技術に関連しない項目である」と評価する場合、優れていた点・劣っていた点のチェックは不要となります。

劣っていた点

- ☐ 品質が低下したため
- ☐ 出来形・精度が低下したため
- ☐ 耐久性が劣る構造になったため
- ☐ 品質・出来形の管理項目が増加したため
- ☐ 品質・出来形の管理頻度が増加したため

選択しないことを基本とします。選択する場合は、発注者と施工者双方が、技術内容や技術特性において、「当該技術に関連しない項目」とであると判断した場合のみ選択可能とされていますので、双方の合意が必要です。

- ◆「当該技術に関連しない項目」とする場合は、発注者・施工者一方のみが「当該技術に関連する項目」と評価しないようにして下さい。

同等と評価する考え方

例えば、ソフトウェアの性能向上の場合

安全性・施工性・周辺環境への影響は直接的に比較しにくいですが、大局的に見て、従来と比べて変化が無い場合と判断できる場合は、同等と評価を行う。

理由：評価を行う場合、1項目や2項目のみで評価を行うと、評価が極端になりがちなため、同等と評価できるものは同等で評価を行い公平な評価とするため。

◆活用した新技術が、工事全体に直接影響しない場合では、技術自体の耐久性や品質を評価してください。

例) 仮設材では仮設材としての耐久性や品質
情報化技術であれば情報化されたサービス自体の品質
測量技術であれば測量精度など

品質・出来形

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○1	○2	●3	○4	○5

○当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

例)現場での確認・立会も遠隔での確認・立会も大差はなかったので同等とする

【不適切な例】

×品質・出来形に影響を及ぼさない技術であるため
関連しない評価項目である。

【適切な例】

○本技術による出来形・品質への影響はないため同等。

優れていた点

- ☐ 品質が向上したため
- ☐ 出来形・精度が向上したため
- ☐ 耐久性が向上する構造になったため
- ☐ 品質・出来形の管理項目が減少したため
- ☐ 品質・出来形の管理頻度が減少したため

製品や機械自体の品質や耐久性
例)照明器具の明るさ
仮設材としての耐久性

劣っていた点

- ☐ 品質が低下したため
- ☐ 出来形・精度が低下したため
- ☐ 耐久性が劣る構造になったため
- ☐ 品質・出来形の管理項目が増加したため
- ☐ 品質・出来形の管理頻度が増加したため

システムであれば、システム化されたことによるサービスの質、測量技術であれば測量精度など

品質管理項目や 品質管理頻度の増減

例)二次製品のため品質・出来形
管理が容易となった

計測対象範囲の管理項目の
確認、管理がシステムにより
自動化され作業員による品質
管理作業が不要となった

一般の通行車両や通行人に対して交通事故リスクが低減する効果、地下埋設物に関する効果については、安全性の「優れていた点・劣っていた点」に該当チェック項目がありません。「その他」項目を使って評価するのではなく、「安全性」において評価します。その際、「優れていた点・劣っていた点」の近い項目に☑チェックをし、コメント欄に詳しく記載することで評価します。（当面の暫定運用）また、総合的所見にも記載をお願いします。

第三者に対する安全性を評価する場合

安全性

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○1	○2	○3	●4	○5

○当該技術に関

①評価点数をクリックします。

コメント

例) 通行規制が不要となるため、通過車両への安全性が向上しました。（「優れていた点」に該当項目がないため近い内容にチェックをしています。）

該当する項目がない場合、近い内容を☑してください。

優れていた点

- ☐ 墜落・転落事故の危険性が減少したため
- ☒ 重機災害の危険性が減少したため
- ☐ 飛来・落下物災害の危険性が減少したため
- ☐ 作業環境(暗がり・騒音・狭所作業等)が向上したため
- ☐ 危険物の取扱が減少したため

劣っていた点

- ☐ 墜落・転落事故の危険性が増加したため
- ☐ 重機災害の危険性が増加したため
- ☐ 飛来・落下物災害の危険性が増加したため
- ☐ 作業環境(暗がり・騒音・狭所作業等)が悪化したため
- ☐ 危険物の取扱が増加したため

通行安全性に関する事例

例) 例年の草刈り作業が不要となるため、草刈機による飛び石や草の繁茂による視距不良がなくなり、歩行者、通行車両への安全性が向上した。

地下埋設物に関する事例

例) 矢板による仮設が不要となるため、地下埋設物への影響がなくなり、安全性が向上する。

③コメント欄に、評価点（1～5点）の理由、新技術を使用した効果や使用状況など、詳しく記載をお願いします。また、該当する項目がないため、近い項目にチェックしたことも書いてください。

*システム仕様上、現時点ではチェックがないと登録できません。

「その他」の項目を追加して評価する場合

36

その他の欄は、A技術では、原則、使用しません。

※新技術評価会議において、追跡調査が必要と判断され、調査を実施する場合に主に使用する項目です。

※または、発注者・施工者双方が、特筆すべき点があり6項目に該当しない点であるが評価のために必要と判断した場合や、申請情報に6項目以外の項目が追加されている場合に限って使用する事ができます。

その他

タイトル 全角20文字以内。

①評価内容を示す
タイトルを記入します。

②タイトルを記入すると評価点数
(1～5点)のチェック(○をクリック)
が可能となります。

効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
○ 1	○ 3	○ 4
		● 5

● 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

③コメント欄に、従来技術より優れる、
劣る点について記入してください。

よくある間違い

・NETIS情報の「技術のアピールポイント」を書いてしまっている

アピールポイントは、6項目を総合した内容なので6項目と重複してしまいます。

・他の6項目に集約できる内容を書いている

「安全性」や「周辺環境への影響」等の効果であるが、「優れていた点・劣っていた点」に該当チェック項目がない場合、**その他欄を追加して評価するのではなく、「優れていた点・劣っていた点」に** ☒ チェックをせず、**コメント欄に詳しく記載すること**で評価します。また、**総合的所見**にも記載をお願いします。

追加項目がある技術の例

NETISホームページにおいて
6項目以外の評価項目が追加され
ている技術では、その他欄を追加
して評価することができます。

「従来技術との比較」
タブをクリック

項目	活用効果	活用効果
経済性	向上	同程度 低下 (-75.97%)
工程	短縮 (0.2%)	同程度 増加
品質	向上	同程度 低下
安全性	向上	同程度 低下
施工性	向上	同程度 低下
周辺環境への影響	向上	同程度 低下
作業環境	向上	同程度 低下
その他、技術の アピールポイント等	従来技術は和式仮設トイレと手洗器の個別設置による施工性向上、PR用パネル採用、手洗器の設置等による衛生性の向上が期待できる。	

6項目以外に
「作業環境」が
追加されている

**技術のアピールポイントは
評価項目ではありません。**

総合的所見 施工状況の写真

37

上記6項目の評価を総合して記載します。

総合的所見 NETIS掲載情報の『期待される効果』に対して、活用した結果はどうでしたか

優れていた所 全角1000文字以内。

例)耐摩耗性に優れ、鋭利で剥ぎ取りやすい形状の爪であるため、従来工法に比べて剥ぎ取り効率が向上した。また、既設床版を傷つけることなく施工を行うことができた。

劣っていた所 全角1000文字以内。

例)新技術の導入は、追加費用となった。

留意する所 全角1000文字以内。

例)剥ぎ取り箇所の状況に応じて刃先の取付位置の選定が必要。

当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか

☐ 適切であった ☐ 適切でなかった

適切でなかった場合、どんな従来技術と比較したらよいか、従来技術名を記入して下さい 全角127文字以内。

今後、当該技術を活用できる工事の場合に活用しますか

☐ 今後でも是非活用したい ☐ 活用を検討したい ☐ 場合によっては活用することもある ☐ 技術の改良を強く望む

理由 全角127文字以内。

「優れていた所」又は「劣っていた所」のどちらか1箇所以上 記入が必要です。

6つの評価項目における

- ・評価点 (○点)
- ・優れていた点・劣っていた点
- ・コメント

と整合が取れた内容であるか確認して下さい。

NETISに掲載されていない情報
(施工性や技術の調達状況など)
が現場での活用を判断する
重要な情報となります。

次のページで
説明しています。

【施工者のみ】

【必須項目】

工事・業務での活用状況がわかる写真を必ず添付してください。

(全景、近景、施工時、完成時等)

※システムやソフトなど施工写真がない場合、利用状況やモニタ画面の写真を添付します。

※照明や反射材など施工状況の写真のみでは技術の評価が困難な技術は、夜間の状況写真を必ず添付して下さい。

施工状況等の写真 ※写真ファイルには、サイズ300×200程度のGIF形式またはJPEG形式の画像ファイルを指定してください



登録済み写真名:

※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

舗装面剥ぎ取り作業



クマンツメ0.28m3用



剥ぎ取り後の状況

当該技術ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか

38

「適切であった」「適切でなかった」いずれかに必ずチェックします。

【必須項目】

「適切でなかった」とする場合、
「適切と考えられる技術名」とその「理由」を記入してください。

○をクリックし
選択します

当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか

☐ 適切であった ☒ 適切でなかった

適切でなかった場合、どんな従来技術と比較したらよいか、従来技術名を記入して下さい 全角127文字以内。

本技術の適用打設長は〇〇mであるのに対し、比較する従来技術「△△工法」の適用打設長は、△△mであり、比較する従来技術は「□□工法」が望ましい。

「理由」

「適切と考えられる工法名・技術名」

当該技術の活用の可能性

改良点・要望点

今後、当該技術を活用できる工事の場合に活用しますか

○をクリックし選択します

☐ 今後もしも活用したい ☐ 活用を検討したい ☒ 場合によっては活用することもある ☐ 技術の改良を強く望む

理由 全角127文字以内。

当該技術について改良点・要望・その他ご意見ありましたら自由に記入して下さい 全角1000文字以内。

当該技術の改善点・要望等がありましたら記載してください。

当該技術の活用の可能性について、該当項目にチェックし、その理由をコメントしてください。

技術開発者にフィードバックすることで、技術のスパイラルアップの実現につながります。
積極的な記入をお願いします。

【施工者の入力完了したら】

- ①施工者は、実施報告書・活用効果調査書（施工者用）への入力が終わりましたら、**必ず**活用効果調査書（施工者用）タブ内の**記入完了のチェック**をしてから**「登録」ボタンをクリック**してください。
- ②NETISシステムより、発注者（監督員）に通知メールが届きますので、発注者（監督員）は、発注者IDでログインし、施工者の入力内容を確認して下さい。
- ③発注者（監督員）は、修正が必要な箇所がありましたら、施工者に対し「修正依頼」ボタンにて修正を依頼します。連絡には、コメント欄を使用することができます。
- ④発注者（監督員）は、活用効果調査表（施工者用）を参考に、活用効果調査表（発注者用）に入力し、記入完了ボックスにチェックを入れて**「登録」ボタンをクリック**して下さい。

施工者

※120分間でタイムアウトします。作成の都度、一時保存を行ってください。一時保存は画面上部メニュー「一時保存」をクリックしてください。登録内容に関するお問い合わせはこちら
システム操作方法に関するお問い合わせはこちら

技術活用提案日 2023/09/26 「技術活用提案日」を変更したい場合は、上部にある「修正依頼」をクリックしてください。

登録番号(技術活用提案日) KT-180089 - A

比較する部署

活用等の型 発注者指定型

※新技術活用システム実施要領で定められたNETIS技術を活用する要領の「3.3.3 活用実施」を参照して下さい。

新技術活用システム実施要領

登録番号(最新) KT-180089 - VR

新技術活用計画書 実施報告書 活用効果調査表(施工者用)

☒ 記入完了
※下記項目の記入が完了したら、□記入完了にチェックを入れて、「登録」ボタンを押してください。

施工者が登録ボタンをクリックするとNETISシステムから自動メールが発注者（監督員）へ送信され、通知されます。

記入完了のチェックが入っていないと、登録ボタンを押してもNETISへ登録されません。

また、活用効果調査表の場合は、活用効果調査表（施工者）タブを選んだ後に記入完了ボックスへチェックを入れて下さい。

* 活用計画書のタブ内の記入完了ボックスへチェックを入れても、活用効果調査表は登録されません。

【発注者】イントラ画面

発注者

③施工者へ修正を依頼するときは、コメント欄に修正依頼内容を記載し、「施工者へ修正依頼」をクリックします。

④中国技術事務所へ提出するには「登録」をクリックします

※120分間でタイムアウトします。作成の都度、一時保存を行ってください。一時保存は画面上部メニュー「一時保存」をクリックしてください。

技術活用提案日

登録番号(技術活用提案日時点)

画面を閉じる 一時保存 印刷・プレビュー 施工者へ修正依頼 登録

参考：発注者用タブ

新技術活用計画書 実施報告書 活用効果調査表(発注者用) 活用効果調査表(施工者用)

☐ 記入完了
※下記項目の記入が完了したら、「□記入完了」にチェックを入れて、「登録」ボタンを押してください。

* 中国技術事務所からの修正依頼メールは、システム仕様上、発注者のみに届き、施工者には届きませんので、発注者から施工者へ依頼する必要があります。

確認依頼内容を確認し、施工者へ修正依頼を行います。

「一時保存」

「施工者へ修正依頼」

「登録」

発注者

画面を閉じる

一時保存

印刷・プレビュー

施工者へ
修正依頼

登録

技術活用提案日 2023/09/26 「技術活用提案日」を変更しない場合は、上部にある「カギ孔」/「リセット」ボタンより変更登録をお願いします。

登録番号(技術活用提案日時) KT-180089 [-] [A]

新技術名称 仮想現実によるイタドリ等の生産性向上手法

比較する従来技術 除草、作業整形工、技能、養生の併用

組織機関名 ▼ 中国地方整備局

部署・事務所名 ▼ 中国技術事務所

工事名 ▼ グリーン工事

活用等の型 ▼ 新技術活用システム実証実験 ※新技術活用システム実証実験で定められたNETISに付するシステムになります。下記「新技術活用システム実証実験」の「3.3.3 活用実証」を参照して下さい。

登録番号(最新) KT-180089 [-] [VR]

新技術活用計画書

実施報告書

活用効果調査表(発注者)

活用効果調査表(施工者用)

☒ 記入完了 ※下記項目の記入が完了したら、チェックを入れて「登録」ボタンを押してください。

作成日 2023/09/26 📅

受注者名

契約額(円)

工事期間 2023/09/26 📅 ~ 2023/09/30 📅

新技術施工期間 2023/09/26 📅 ~ 2023/09/30 📅

施工場所

活用理由 ※チェックボックスにチェックがない場合、入力されたコメントはNETISに登録されません
※チェックボックスにチェックがある場合、コメント欄は入力必須です

☒ 経済性

☒ 工程

☐ 品質・出来形

☐ 安全性

☐ 施工性

☐ 環境

☐ その他 ()

☐ その他 ()

コメント欄

コメントは入力後、編集・削除も可能です。

下の四角の中にコメントを入力し、左上の「一時保存」ボタンを押すと上の四角へコメントが移動し、コメントを入力することができます。

コメント欄 (確認者のコメント (赤)、申請者のコメント (青))

2024/01/05 19:10:33

確認

☐ コメント内容確認済

コメントは入力後、編集・削除も可能です。

申請者が確認者(申請窓口)に伝えたいことがある場合、または確認者(申請窓口)が申請者へ伝えたいことがある場合は、ここにコメントを入力してください。図面等のファイルで伝えたい場合は、以下の「ファイルの選択」よりファイルを選択してください。

ファイルを選択 選択されていません

不備①:「活用効果項目の評価不足」

活用後編

①活用計画書における活用理由の項目しか活用効果評価していない。

⇒ 26 27 ページ参照

活用理由は、主な活用理由1項目でも構いませんが、評価は原則6項目必要です。

②施工者と発注者の評価項目に相違がある。

⇒ 28 33 ページ参照

当該技術に関連しない項目とする場合、事前に施工者は発注者と調整して下さい。

当該項目に該当しない評価にする場合は、双方が判断した理由を詳しくコメントに記載して下さい。

③その他項目に入力されている。

⇒ 36 ページ参照

A技術では、その他欄は基本的に入力しないでください。アピールポイントをその他欄に記入しないでください。

不備②:実施報告書 施工概要 内容欄、対象数量欄が「一式」と記載されている

×具体的な工種や数量が記載されず、「一式」と記載している。

⇒ 24 ページ参照

→施工概要「内容」欄は、工事全体の概要がわかるように、主要工種の数量を記載してください。

施工概要「対象数量」欄は、新技術の使用量や対象工種の数量を記載してください。

その際、NETISに掲載されている「基準とする数量」の単位を用いてください。

不備③:コメントの記載がない

⇒ 30 ~ 35 ページ参照

×「当該技術に関連しない項目」と評価した項目において、コメントが記載されていない。

→コメントは必ず記載してください。

留意点①：提出時期

×新技術の活用は終了したが、活用効果調査表を提出していない。(VEは提出不要)

→新技術活用後、速やかに提出してください。工事が完了していなくても、新技術の活用が終わりましたら、早めの提出をお願いします。特に年度末は、年度内に内容確認し登録ができるよう、ご協力をお願いします。ただし、新技術の使用途中では提出できません。

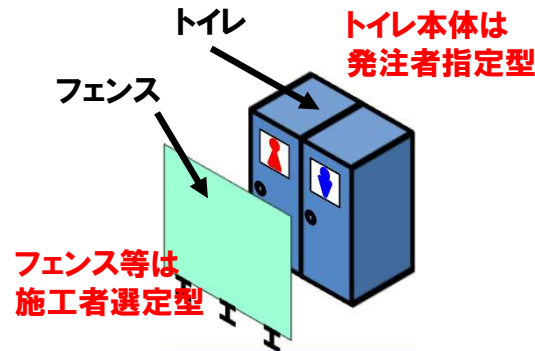
留意点②：NETIS技術の快適トイレを使用した場合

→令和5年度より全ての工事が快適トイレの対象工事になっています。

令和5年度より快適トイレに NETIS技術を使用した場合は、原則発注者指定型になります。

(地整共通仕様書に記載されています。)

【注】あくまで、トイレ本体のみを「発注者指定型」とします。
快適トイレの一部である、目隠しフェンス等は、「施工者選定型(契約後提案)」とします。
【地整運用】



R5 地整共通仕様書 抜粋

快適トイレの導入について

1. 内容

受注者は、現場に以下の(1)～(11)の仕様を満たす快適トイレを設置することを原則とする。なお、(12)～(17)については、満たしていればより快適に使用出来ると思われる項目であり、必須ではない。

【快適トイレに求める機能】

- (1) 洋式(洋風)便器
- (2) 水洗及び簡易水洗機能(し尿処理装置付き含む)

中略

2. NETIS登録された快適トイレの取扱い

NETIS登録された快適トイレを使用する場合は、「公共工事等における新技術活用システム」実施要領の 3.3.3.3 発注者指定型

- (3) 5) に基づき、活用効果調査を行うものとする。

留意点③：購入のみで使用がなかった場合

○油処理剤やアスファルト補修材のように突発的な事故対応用に購入し、最終的に使用しなかった

→活用効果調査表は作成願います。活用報告書をできる範囲で記入し、活用効果調査表は、会社名、記入者、連絡先を記入し、総合的所見に「〇〇のため、購入をしたが、〇〇がなかったため、使用していない」等の記入をお願いします。